

総 合 報 告 書

専 門 家 氏 名	神 田 道 男
派 遣 国	イ ン ド ネ シ ア
指 導 科 目	日 - ア セ ア ン 科 学 技 術 協 力
任 国 配 属 機 関	L I P I (イ ン ド ネ シ ア 科 学 技 術 院)
本 邦 所 属 先	国 際 協 力 事 業 団
報 告 書 作 成 年 月 日	昭 和 5 9 年 1 2 月 1 5 日

I 案件の概要

1. 昭和58年5月のASEAN諸国訪歴の際、中曽根総理は、科学技術協力の成果をASEAN諸国と分ち合うとの観点から、農業科学、工学、医学、基礎科学、更に先端技術等の各分野にわたり、日・ASEAN間で科学技術面での協力を推進し、意見交換する閣僚会議及び専門家会議の開催を提唱し、ASEAN側の賛同を得た。
2. 上記構想に基づき、昭和58年11月～12月にかけて高級事務レベル会合及び閣僚会議が東京において開催された。閣僚会議のわが方代表は安倍外務大臣、安田前科学技術庁長官、ASEAN諸国側代表は、ハビビ研究・技術担当大臣（インドネシア）、ステファン・ヨン科学技術環境大臣（マレーシア）、エミール・ハヴィエル国家科学技術庁長官（フィリピン）、ウォン・クアイ・チョン商工担当大臣（シンガポール）、ダムロン・ラタピパット科学技術エネルギー大臣（タイ）であった。

閣僚会議においては、科学技術分野での今までの協力活動が活発かつ実り多いものであったことに満足の意が表明されるとともに、今後とも科学技術協力実施のための適切な措置をとるよう努力すべきであるとの見解を分ちあった。

また、1984年中の双方にとり都合の良い時期に上記閣僚会議のフォローアップのため高級事務レベル会合を開催することで合意がみられた。
3. 本年3月7～8日にフィリピンのバギオで開催されたASEANのCOST（科学技術委員会）会合の際、わが方より、わが方として協力可能な分野、方法等についてASEAN側に提示、他方、先方は同会合での決定であるとして、別途、バイオテクノロジー、マイクロ・エレクトロニクス（コンピューター）及びマテリアル・サイエンスの3分野についての協力をわが方に要請するとともに、上記わが方提案は従来のパイプラインの協力と同じであるとして日・ASEAN間の科学技術プロジェクトとしては不相当との意向を示した。
4. 上記COST会合でのアセアン側の決定を踏まえ、別表の通りの新たな提案を作成し、6月下旬COST議長国タイ及び高級事務レベル会合議長国インドネシアに非公式に提示したところ、前向きな反応を得た。今後残りのアセアン諸国にも提示の予定。右結果をみて高級事務レベル会合の開催時期を決定する。
5. 11月上旬開催されたCOSTにおいて非公式提案のラインでとり進める見通しがたつたので、高級事務レベル会議を12月11、12日に開催することとした。

日・アセアン科学技術協力の候補案件

(6月下旬タイ及びインドネシアに非公式提案したもの)

	協 力 分 野	協 力 方 法
バイオテクノロジー	食品保存・加工プロジェクト	研修員受入/短期専門家派遣
マイクロエレクトロニクス	コンピューター ロボティクス オートメーション	研修員受入
マテリアルサイエンス	①金属材料の耐食性評価技術 ②無機材質研究 ③金属材料の腐食に関する研究 ④未利用植物資源の高度利用技術 ⑤ガラス材料の新利用化技術 ⑥熱帯地方に適した高分子材料の研究	主としてプロジェクト方式技術協力

(注) なお、わが方が3月に提示した案件のうち既に予算化されているもの及び4つの集団研修コースについては本件協力案件として位置づけるよう働きかける予定。

II 配属機関の受入体制

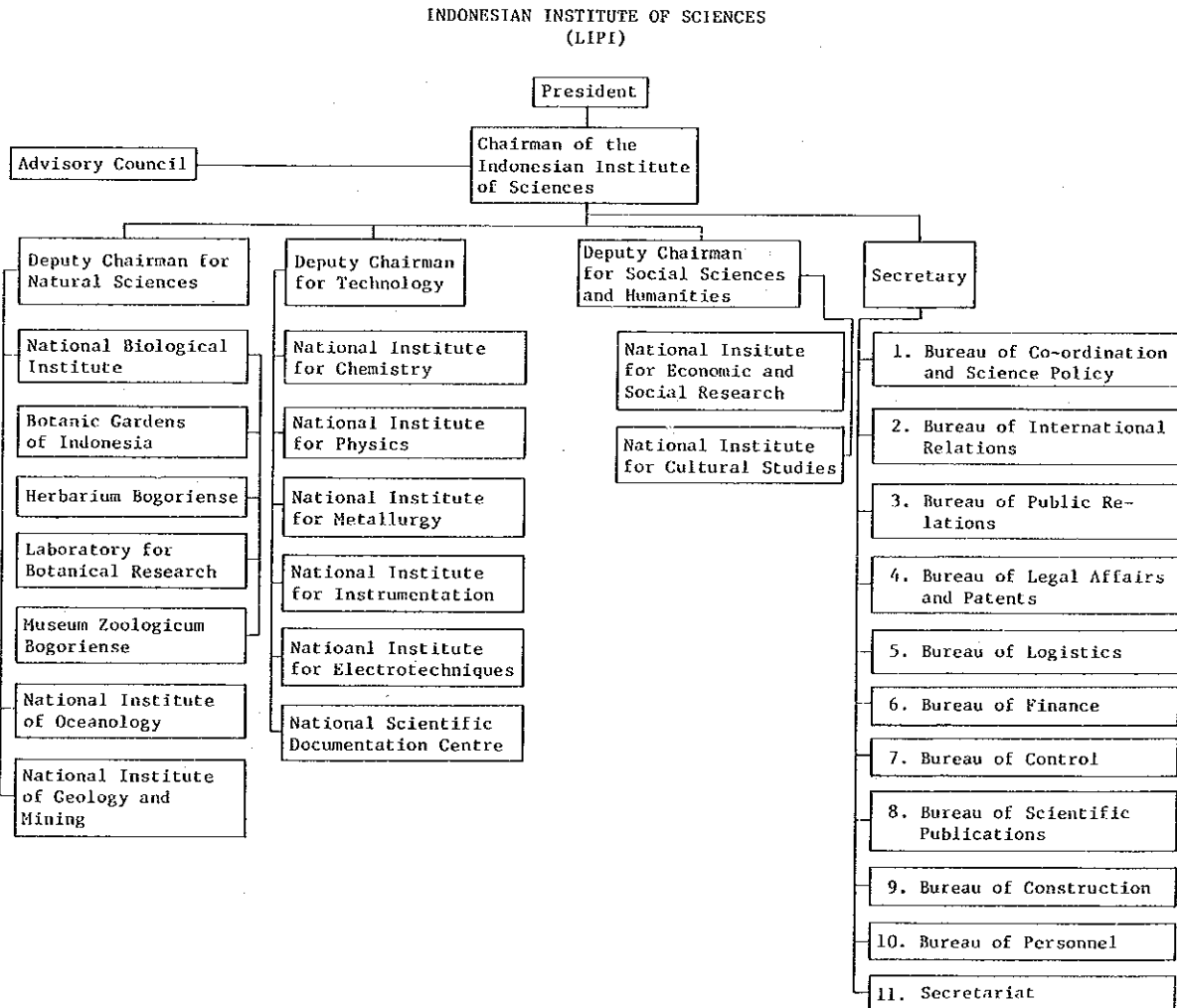
1. アセアン側カウンターパート：COST参加機関

- インドネシア：Prof. Dr. D. A. Tisna Amidjaja LIPI 総裁
マレーシア：Mr. Moh Noor Ajala 科学技術環境省次官
フィリピン：Dr. A. L. Kintanar 国家科学技術庁次官
シンガポール：Dr. Vicent Yip 科学審議会理事
タイ：Mr. Kasera Snidvong 科学技術エネルギー省次官

2. インドネシア側カウンターパート

- Muhammadi Siswo Sudarmo (ムハマディー)：Deputy chairman for
technology LIPI
Moertini Atomowidjojo (Mrs. ムルティニー)：Director, Bureau of
International Relations,
LIPI

3. LIPI組織図



Ⅲ 活動内容及び業務実績

1. 業務実施計画

日・ASEAN科学技術協力（高級事務レベル会合）対処方針案

(1) わが方提案の具体的実施と今後の取進め方

- ① ASEAN側にわが方提案プロジェクト（別添）の中からASEANプロジェクトとしてとりあげたいものを選定，その各々についてコーディネーティング国を早急に決定するよう求める。
- ② 研修生受入れ数，専門家派遣数につき要望ある場合，現時点で提供可能な最大限であるとして先方の内部調整を求める。先方が数の増加について固執する場合は，その場で結論をだすことなく，将来のコーディネーティング国との協議に委ねることとする。
- ③ プロジェクト技協につき要望ある場合，Ⅲマテリアル・サイエンスに限ってのみ可能性を示唆し，個々のプロジェクトについて調査の上決定していきたい旨明らかにする。

(2) 日・ASEAN科学技術協力の継続性

第一回高級官束会合の合意議事録及び閣僚会議の共同新聞発表でも明らかにされていることでもあり，いわゆる多年度コミットメントという形でない一般的表現（on continuing basis）での継続性につき応じる。

(3) 対ASEAN協力（ASEANプロジェクト）

今次協力はバイベースの通常の協力と異なりプロジェクトの企画立案及び実施をASEAN全体のコンセンサスとして日本側と協力して行なうとするのがASEAN側の強い要望であり，かつかかる協力はASEANと他のダイアログパートナー（豪）との間にも存している由のところ，わが方としてもASEANの域内協力とASEAN BODYの発展に貢献するとの見地から下記2点が満たされることを前提にこれに応じることとする。

- ① ASEAN内部の連絡・調整の遅れによりプロジェクトの実施が効率的に行なわれないうようASEAN側として最大の努力をする。
- ② コーディネーター国若しくはコーディネーターの指名する当該国と日本との間では従来の我が国のバイの技術協力の方式に従って実施することにつきASEAN側の理解を得る。

(4) 日・ASEAN科学技術協力の予算的規模

- ① ASEAN側は福田・鈴木前総理の如きブレッジ（基金）を再度もちだしてくる可能性もあるが，これについてはわが方援助制度になじまず応じられないとの従来の方針を一貫しASEAN側に理解させる。
- ② 但し先方は現在はむしろかかる要求の非現実性につき徐々に理解を深めつつあるよう

にも思え、他方対内的（対閣僚説明上）にわが方オファーが予算的にどの程度の数字になるかを知りたい趣きでありかかる要求に応えることは先方の能力を柔軟化するとの観点から有意義であると思われるので今次わが方提案の案件についての試算値につき紹介する。

(5) その他

次期日・ASEAN科学技術閣僚会議の日程については、先方の意向を聞きおくにとどめる。

2. 活動内容及び業務実績

(1) 目・ASEAN科学技術協力高級事務レベル会議

日本側出席者

代表	木幡 昭七	外務省経済協力局審議官
メンバー	天木 直人	外務省経済協力局技術協力課企画官
"	福川	外務省アジア局東南アジア二課事務官
"	佐竹 宏文	科学技術庁振興局国際課長
"	神田 道男	国際協力事業団企画部企画課

開催日

昭和59年12月11日及び12日

場 所

インドネシア国ジャカルタ市

L I P I（科学技術院）会議室

(2) 会合結果要旨

- ① ASEAN側は日・アセアン科学技術協力を、アセアン諸国間の科学技術協力の一環として位置付け、日本との協力もこの原則（guide-line）の下でする意向を示した。
- ② 協力は次の3分野を中心に行うことに双方合意した。
 - A) バイオテクノロジー
 - B) マイクロエレクトロニクス
 - C) マテリアルサイエンス
- ③ 具体的協力内容については、日本側提案に基づき検討する。バイオテクノロジーとマイクロエレクトロニクス分野については当面研修員受入と専門家派遣をすすめることとし、日本側提案をASEAN側も検討し早急に日本側に回答することとした。
- ④ マテリアルサイエンス分野についてはプロジェクト方式技術協力としてとりすすめるべく日本側でこの形式の協力が可能なサブテーマを検討のうえASEAN側に回答する

こととし、ASEAN側はこの提案を検討、サブテーマごとのコーディネーターを決め日本側に連絡する。その後サブテーマごとの計画策定のための専門家による調査を行う。

Ⅳ 総 括

(1) 今後のとりすすめについて

A S E A N側は従来の日・アセアン協力と異なり今回はA S E A N常任委員会の下にある科学技術委員会（C O S T）を核にA S E A N間の技術協力の原則をたてており、日本あるいは豪州との協力においてもこの原則が貫ぬかれることが最重要課題となっているように見受けられる。従ってアセアン間のコンセンサスづくりに時間をかけ、日・アセアン間の協力は序々に進展すれば良いとの考えのように思われる。従ってJ I C Aとしてもゆっくりした柔軟なペースで対応することが肝要と思われる。なお、次回の閣僚会議の日程は正式議題とならずA S E A N側は1986年開催でも良いとの態度である。

(2) J I C Aとしての今後の具体的措置

- (イ) A S E A N各国の海外事務所を通じ本件協力の実施期間（今回の会合の各国代表の所属する機関）とコンタクトし、わが国技術協力の方式、J I C Aの業務内容を周知していく必要がある。
- (ロ) 国内に本件プロジェクトをすすめる上で支援する専門家よりなる委員会の設置を検討する必要がある。

V 添付資料（相手側に提出したレポート他の資料）

1. 業務日誌
2. LIST of DELEGATES
3. Record of the Meeting
4. 新聞報道

業 務 日 誌

59年12月14日

氏名 神田道男

月 日	曜日	内 容
12 / 9	日	移動（東京－ジャカルタ） 20:00 大使館での打合せ（天木，福川，神田，中村公使，渋谷，菅原書記官）
10	月	9:00 JICA事務所打合せ（榎本次長，青木） 10:00 「環太平洋人造り協力第3回予備会合出席」（中村公使，渋谷一等書記官，天木企画官，福川ア東2事務官，神田） 14:00 大使公官と協議 18:30 日・アセアン科学技術協力協議出席者との懇談会
11	火	9:00 日・アセアン科学技術協力高級事務レベル会合開会式（ハビビ技術大臣） 9:30~10:00 高級事務レベル協議
12	水	A.M. 会合議事録ドラフティング 14:00 高級事務レベル協議最終会合
13	木	8:00~12:00 JICA事務所報告打合せ（山村所長，青木） P.M. 報告書作成 17:00 移動（ジャカルター東京）
14	金	8:00 東京（成田）着

ASEAN - JAPAN SENIOR OFFICIALS MEETING ON
SCIENCE AND TECHNOLOGY

11 - 12 December 1984, Jakarta, Indonesia

TENTATIVE LIST OF DELEGATES

BRUNEI DARUSSALAM

1. Mr. Datuk Zakaria bin Haji Nurdin
Deputy Director of Public Works
2. Mr. Matassan Haji Daud
Official with Special Function
to the Ministry of Development
3. Haji Alaihuddin Haji Moh. Toha
Official in Charge of ASEAN-Japan Forum
Ministry of Foreign Affairs

INDONESIA

1. Prof. Dr. D.A. Tisna Amiljaja
Chairman,
Indonesian Institute of Sciences (LIPI)
2. Mr. Adiwoso Abubakar, M.A.
Director General, ASEAN - Indonesia
Ministry of Foreign Affairs
3. Dr. Sabana Kartasasmita
Assistant to the Minister of State
for Research and Technology
4. Mr. Wardiman Djojonegoro
Deputy Chairman,
Agency for the Assessment and Application
of Technology
5. Prof. Dr. Muhammadi
Deputy Chairman for Technology
Indonesian Institute of Sciences (LIPI)

MALAYSIA

1. Mr. Moh. Noor Ajala
Deputy Secretary General
Ministry of Science, Technology and
the Environment
2. Mr. Wan Badaruddin Zahari
Assistant Director, ASEAN-Malaysia
Ministry of Foreign Affairs

PHILIPPINES

1. Dr Q.L. Kintanar
Deputy Director General
National Science and Technology Authority
2. Dr Manolito Madera
Director,
National Science & Technology Agency
3. Ms. Nonet M. Dapul
Director,
Division Industrial and Technological Affairs
Ministry of Foreign Affairs

SINGAPORE

1. Dr Vincent Yip
Director,
Science Council of Singapore
2. Mrs. Rosa Tan
Research Officer,
Science Council of Singapore

THAILAND

1. Mr. Kasem Snidvong
Deputy Permanent Secretary
Ministry of Science, Technology and Energy
2. Dr. Krissanapong Kirtikara
Dean, Faculty of Engineering
King Mongkut's Institute of Technology
Thonburi
3. Mr. Prakit Chaimongkol
Third Secretary
Royal Thai Embassy

J A P A N

1. Mr. Shoshichi Kowata
Deputy Director General
Economic Cooperation Bureau
Ministry of Foreign Affairs
2. Mr. Hirobumi Satake
Director International Division
Science and Technology Agency
3. Mr. Naoto Amaki
Senior Assistant for Economic Cooperation
Ministry of Foreign Affairs
4. Mr. Michio Kanda
Deputy Director
Planning Division
Japan International Cooperation Agency (JICA)
5. Mr. M. Fukukawa

6. Mr. Jun-ichi Nakamura
Minister,
Embassy of Japan
7. Mr. Minoru Shibuya
First Secretary
Embassy of Japan
8. Mr. Akira Sugawara
Second Secretary
Embassy of Japan

Record of the Meeting of ASEAN - Japan Senior Officials
on Science and Technology

Jakarta, Indonesia 11 - 12 December 1984

1. Pursuant to the decision of the Japan - ASEAN Ministerial Meeting on Science and Technology held in Tokyo, Japan on 1 - 2 December 1983, the Meeting of ASEAN - Japan Senior Officials on Science and Technology was held in Jakarta on 11 - 12 December 1984 to discuss the implementation of ASEAN - Japan Cooperation in Science and Technology.
2. The Meeting was attended by delegates of ASEAN countries and Japan. The lists of delegates appears as Annexes A and B.
3. Prof. Dr. D.A. Tisna Amidjaja, the Chairman of the Indonesian Institute of Sciences delivered the welcoming address. The Meeting was officially opened by H.E. Prof. Dr. B.J. Habibie, the Minister of State for Research and Technology, Republic of Indonesia. In his address the Minister reiterated that research and development in region specific problems such as in ASEAN is best undertaken by institutes in ASEAN. He welcomed the steps taken by the Government of Japan to bring into effect a new scheme of ASEAN - Japan Cooperation in Science and Technology. He stressed that feasible, pragmatic and consistently executed programmes clearly related to development programmes and projects of benefit to both the ASEAN countries as well as to Japan are essential for fruitful science and technology cooperation between ASEAN and Japan. The full text of his address appears as Annex C.
4. Prof. Dr. D.A. Tisna Amidjaja, the Leader of the Indonesian Delegation and spokesman for the ASEAN countries, was elected as Chairman of the Meeting. Mr. Shoshichi Kowata, Deputy Director General, Economic Cooperation Bureau, Ministry of Foreign Affairs, and Leader of the Japanese Delegation, was elected as Co-Chairman of the Meeting.
5. The Meeting adopted the agenda which appears as Annex D.

6. The ASEAN delegation presented the Guidelines for ASEAN Cooperation in Science and Technology, which appears as Annex XV of the First Japan - ASEAN Ministerial Meeting, held in Tokyo, Japan on 1 - 2 December 1983.
7. The ASEAN delegation presented the Guidelines for ASEAN - Japan Cooperation in Science and Technology, which included the following:
 - a) The cooperative programmes would be managed by ASEAN
 - b) There should be continuity in the cooperative programmes
 - c) For each project, ASEAN would designate a project coordinator. All communications between ASEAN and Japan pertaining to each project would be done through the respective project coordinator.
 - d) All cooperative activities would be geared towards project type cooperation, covering training, experts, equipment and R & D.
 - e) All ASEAN cooperative programmes would allow all member countries to participate equally.

The Japanese delegation expressed its understanding that implementation of this cooperative program according to these guidelines.

8. The Meeting agreed on the following three areas of concentration:
 - a) Biotechnology
 - b) Microelectronics
 - c) Material Sciences
9. The Meeting took note of the Japanese delegation's statement on the cost estimate of ¥400 million for the first stage of the cooperation between ASEAN and Japan in Science and Technology according to the Japanese proposal, which appears as Annex E.
ASEAN delegation informs Japanese delegation that ASEAN will study Japanese proposal and respond to it in due course.
10. In the area of Material Sciences, Japan would indicate to ASEAN the sub-projects in which Japan would cooperate in the form of project type cooperation. ASEAN would then appoint a project coordinator. A meeting between ASEAN and Japanese experts would be convened to formulate details of the project.

11. In the other two areas of concentration Japan would endeavour to cooperate towards realizing project type of cooperation in the next stage of cooperation.
12. The Meeting was held in an atmosphere consonant with the cooperative and friendly relations between Japan and the ASEAN countries and expectation was shared that the promotion of cooperation in the field of Science and Technology would provide a wider and strengthened basis for this overall relationship between Japan and the ASEAN countries.

Asean - Japan hold scientific meeting

Jakarta, Dec.11 (ANT).— The senior officials of ASEAN and Japan is holding a meeting here today, to discuss scientific and technological cooperation between countries grouped in the regional organisation and that East Asian country.

The Minister of Research and Technology/Head of BPPT (Agency for Assessment and Application of Technology), Dr.B.H.Habibie, is opening the meeting here this morning.

The meeting is attended by around 30 participants

from Japan, Thailand, the Philippines, Brunei Darussalam, Malaysia, Singapore and Indonesia.

LIPi (Indonesian Institute of Sciences) announced Monday that the meeting would discuss the principle, mechanism, scope, estimated cost expansion as well as the working programs of scientific and technological cooperation between ASEAN and Japan.

(1984年12月12日付インドネシア「オブザーバー」紙)

**バイオなど三分
野で技術移転**

日本、ASEANに

「ジャカルタ十二日」欄村特派員「日本とASEAN」(東京)アジア情報通信)本報記者の現地取材技術移転方についての高級幹部レベル会合を調査(バイオテクノロジー(生命工学)のマイクロエレクトロニクス)の素研工場の三分野での技術移転を進めることである。このうち、農林工学の分野では、食糧の害虫防止や新素材の開発を進めるため各回間で早急に具体的なプロジェクトを始めることになった。同会合は昨年十二月に東京で開いた日本・ASEAN科学技術協定交渉のフォローアップとして、十二月十四日、ジャカルタで開かれた。

(1984年12月14日付「日本経済新聞」)

JICA